

名古屋丸の内ロータリークラブ Nagoya Marunouchi Rotary Club Weekly Report

例会会場：名古屋クレストンホテル
(TEL : 052-264-8000)
例会曜日：木曜日 12時30分
クラブ会報広報委員長：山崎 彰子
HP : <http://nagoya-marunouchi-rc.org/>

2022-23年度 R.I. テーマ
会長：ジェニファー E・ジョーンズ



承認
会長
幹事
事務局

1995.03.28
武山 卓史
加藤 豊
名古屋クレストンホテル
1007号
名古屋市中区栄 3-29-1

TEL 052-263-1324
FAX 052-263-0730
E-mail seinan1@fancy.ocn.ne.jp

武山卓史会長 年度目標 : 「ロータリークラブは素晴らしい！」 自分と周りが笑顔でつながるクラブを目指して

第 1193 回 例会 No. 2 令和 4 年 7 月 14 日 (木)

■ロータリーソング	「我等の生業」「四つのテスト」
■出席報告	会員43名中 19 名出席
■出席率	47. 50% 出席計算人数40名
■スピーカー	加藤 豊さん・山崎彰子さん
■ゲスト	青少年交換派遣留学生 久保原由惟さん

会長挨拶

武山卓史



先週の金曜日に大変なことが起きて、お昼前でしたでしょうか。安倍元首相が暗殺されました。「桜を見る会」で

安倍さんとはグータッチをしたこともあるので、皆さんもいろいろ思うことがあると思います。たまたま今週の月曜日榎山女学院大学で講義をすることがあって、そのテーマが「民主主義と税」についての講義でした。まさにちょうどぴったりです。安倍首相のことで僕が1番心に残っているのが、平成29年の衆議院を解散するときの記者会見です。その時安倍元首相は「税こそ民主主義」と言ったんですね。「だから解散します」普通の人が聞いたならなんのことかと思いますが、消費税を8%から10%に上げる上げると言っていて、なかなか皆さん上げられずにいて、いよいよ当時の安倍首相が上げると言う段階になった時に、消費税が上がる2%は、もともとその中の5分の1は社会保障に、残りは国債の返済に充てると言う事だったんですが、それを全て全額社会保障に充てる。税の使い道を変えるときには必ず、国民の審判を受けなきゃいけない。だから、衆議院を解散すると言ったんです。僕は心に残っていて、特に安倍さんの支持者ではないので、解散の理由に税金を使ってどこにつけではないかと思いましたが、改めて今考えるとやっていることは本当に正論で、僕は榎山でも同じように教えたんです。確かに税金の使い道を考えることが1番大事で、財産権の侵害なので、国民が出した税金の使い道を変えると言う事はものすごく大事なことから、解散

して国民の選挙で訴える。普通に考えると当たり前のことを言っていたなと改めて思いました。榎山の講義の時も生徒に「首相経験者の暗殺と言ったら伊藤博文、原敬、五一五犬養 二二六事件、全部戦前です。戦後はなかったんです」と生徒はぼかんとして「戦前ってなんですか？」もうどの戦争かわからないんですね、今の子どもたちは。僕たちは戦争と言えば太平洋戦争なんですけど、今の子どもたちは湾岸戦争なのか今の戦争なのか、わからない。多分そういうことだと彼女たちから教わりました。あと彼女達が私たちは物心がついてからずっと安倍さんです。それぐらい長い間やっていたから、若い子どもの中には安倍首相ってというのは心に残っているんだなと思いました。後は報告です。先週の木曜日に 2760 地区の会長幹事の懇談会に加藤幹事と行ってきました。各クラブで挨拶をしますが、僕と加藤さんが並んで「皆さんどっちが会長だかわかりますか」と聞きものすごくウケましたけれど、本当にしっかりした幹事でこれから頑張っていこうと思っています。次の日の7月8日はクラブ活性化セミナーのプログラムということで、これは僕が行って参りました。これはまたゆっくりお話しします DEI と言うのをやっているということで Diversity Equity Inclusion 多様性 公平さ 解放性ということで、要するにロータリーをもっと解放していきましょう。それは会費を下げたり、女性会員を増やしたり、そういったことに力を入れていきましょう。いろいろ他のクラブの方と話し合いましたが、丸の内ロータリーに比べて他のクラブは遅れているなあというのが正直な感想でした。以上です。ありがとうございました。

ニコBOX

●青少年交換留学生受け入れについて、加藤幹事より会員卓話「事業紹介」で山崎彰子さんにお話を頂きます。よろしくお願ひいたします。

武山、川原、水野、立石、後藤、安江、河原、岩田、山崎 恵利、松尾、長谷川、小野(敬称略)

加藤幹事 青少年交換プログラムでフィンランドに行かれる久保原由惟さんをご紹介します。よろしくお願ひいたします。

高橋さん 上着を忘れました。

西川さん 青少年交換留学生、久保原由惟さん、いよいよ8月6日セントレアから出発。あちらでいっぱい友達ができるといいですね。

田島さん 小野さん、ニコBOX よろしくお願ひいたします。

本日合計 54,000 円

青少年交換派遣留学生ご挨拶

久保原由惟さん



名古屋丸の内ロータリークラブで、青少年交換プログラムのご支援をいただいている久保原由惟です。

このたび派遣先がフィンランドに決まりました。英語とスウェーデン語圏に派遣が決まったので、スウェーデン語を勉強している最中です。向こうのホストファミリーやこっちに来るリーネアさんとも連絡をとって、向こうでの生活がとても楽しみです。この1年を通して、向こうの文化や言語なども含めいろいろなことを学び、人として成長したいと思っています。特にフィンランドは教育や福祉が充実しているので私はその辺をしっかりと学んで帰ってきたいと思っています。これからフィンランドで1年がんばってきますので、どうぞ支援をよろしくお願いします。

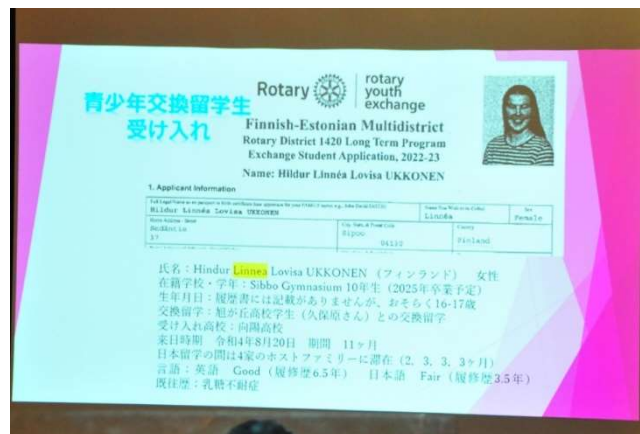
青少年交換留学生受け入れについて

加藤 豊



久保原さんと交換留学をする方は、フィンランドの女性でヒンダーリーネアウッコネンさん。この方が日本に8月20日に来られます。年齢はおそ

らく16歳から17歳と言うことで、この方はフィンランドから向陽高校のほうに編入で来られます。留学の期間は11ヶ月。日本留学の間はできれば4つのホストファミリーを作って、そちらに滞在してもらいたいと言う、地区ロータリーの希望でした。4つの家とというのが準備できるかどうか判りませんが、その場合には1つのファミリーで4ヶ月ぐらい行っていたら、3つの家と言うことになるかもしれません。言葉を喋られるのは英語とフィンランド語とスウェーデン語あたりは大変堪能だと。日本語は履修歴3.5年と言うことで、簡易なコミュニケーションなのかなと予測しますが、来ていただかないと、そこはわかりません。健康的なトラブルとしては乳糖不耐症ということでした。



これまで私たちが、米山と言うことで援助させていただいておりましたが、こちらの青少年交換留学生プログラムは、米山と全く違います。米山は大学生であって、今度の交換留学で来るのは高校生。要するに子供です。だからものすごいサポートをしなければいけない。我々がホームステイの家を用意しなければいけない。家庭訪問をしたり期間中ホームシックにかかったりしないかとか。面談プログラムを組んだり、支援をしなければいけない。帰国する時とか引越越する時もロータリーの方から応援に行かなければいけない。青少年交換留学生受け入れに関する受け入れクラブ、地区青少年交換委員会委員会の責務といたしましてはホストファミリーを決めなければいけないそのホストファミリーが受け入れに適切かどうか審査をしなければいけない。カウンセラーをおかなければいけないと言うことが責務となっております。当クラブとしては立石さんにカウンセラーをお願いしております。受け入れ学生が日本に到着したら、地区のロータリーでオリエンテーションを行うと言うことです。

地区と受入クラブで協力して、留学生の効果的な支援体制を構築しなければならないということになっています。ホストファミリーを決める、これから一番大きなイベントだと思うんですけども、2世帯は決めて欲しい。できれば3世帯以上のホストファミリーを決めてほしいと言うことです。学生が来たら寝室を用意して、家事の分担を作って、学校への交通手段とかそういったことを段取ってあげると言うことも必要です。時々観劇とか連れて行って、日本の社会や文化になじませると言うことをしていただきたいと思います。

食事ですが日本食が口に合わないと言うことで、最初は手につけない留学生もいるらしいんですが、お腹が空けばそのうち食べるそうです。何ヶ月か経つと「日本食大好き」と言い始めるそうなので、食べなくてもそのまま日本食を出してくださいと言うことです。学生に問題が起きると言う事はよくあることだそうにして、多いのがホームシック、母国の家庭問題、11ヶ月と言う長い期間で、そういうことが起きる場合もあります。学生とは到着前からいろいろコミュニケーション取る必要があります。立石さんと久保原さんとかコミュニケーションをとっていただいていると言うことです。向陽高校の制服の問題、旅行保険の加入、いくらお金を持ってくるか、そういうことを決めておかなければいけないと言うことです。

留学生が到着したら最初に行わなければいけない事は、ホストファミリーの紹介です。カウンセラーも同席の上、簡単なオリエンテーションを空港で行うことになると思います。我々受け入れクラブだけではなしに地区の方からも毎月のように

オリエンテーションのプログラムが入っておりまして、学生が到着したらそういった説明を学生におこないます。気をつけることは、学生に対しては毎月お小遣いが支払われます。このお小遣いと言うのは月に1回、この例会に出席していただいて、その時に簡単なスピーチをやっていただいて、その時にお小遣いを渡す。そのお小遣いは月に10,000円と決まっているそうです。

地区で10,000円と統一しているそうなので、何卒よろしく願いいたします。

最近の話としてよくあるのがSNSとか携帯電話。携帯電話は学生さんに持っていただくと言うのは認めておるそうです。

留学生が来ましたら、いろいろな手続きを手伝ってあげなければいけません。住民票の登録をしなければいけません。国民健康保険に加入しますが、その時は、保険料はクラブにて負担をするそうです。その時に大切なポイントとしては、1人世帯として住民票を登録すると言う事。他の世帯と収入合算すると保険料が上がってしまうので、無収入世帯として登録します。留学生、カウンセラー、ホストファミリーから、毎月地区に定期的に報告書を書いてほしいと言うことでした。留学中の支援ですが、カウンセラーは定期的に学生と連絡を取り合う、もしホストファミリーに何か問題があるようでしたら、ホストファミリー抜きで学生と交流するとかそういったことが進められております。定期的に新しいファミリーに移行していきますので、引っ越しの手伝いとかはクラブの方でしてほしいと言うことでした。あと、早期帰国というのがあるらしくホームシックになって帰ってしまうことも起こり得るそうです。予定通り日本に11ヵ月滞りして帰国すると言う段になりましたら、日本でお世話になった人にお礼を言う機会を作るとか、可能であれば日本で1回旅行にいかせてあげて、もう少し日本への理解を深めてあげるとか言う事です。後はこれは非常に大切なことですが、こういった留学に来た子は、将来ロータリアンになる可能性が高い子ですので、そのところを今のうちにしっかりと植え付けておくと言うところが大事だと思います。

ホストファミリーを大募集しておりますので、ぜひ家で受け入れたいと言うところがありましたら私どもの方へご連絡ください。

事業紹介

山崎 彰子



私の仕事は税理士業、税理士法人アクシスと言う社名で、代表の廣嶋が個人から起こして、そして法人にして35年ぐらいになる会社です。

廣嶋も年齢が70を超えてきたので、事業承継ではないですが、次の世代へつなぐと言うことで社員税理士と、〇〇監査法人の代表をやっている人間が今年の4月から家のほうに社員税理士として入社しまして、その2人で今後やっていきます。30数年前泥臭い会計事務所から始まって、今でも昔ながらの事務所の処理を母体に、いろんなところをやっていると言うのもありますが、基本的には相続に関しては強くやっていて、新しい会計士が入ってきたことによって事業承継、M&Aは監査法人とコラボしてやっていたんですが、そちらの方を自社でできるように言うことで、力を入れていきたいなと思っている会社です。それに付随して関連会社が3社あります、有限会社ナレッジネットワークというのがあり、そちらは、私が代表している会社です。そこは基本的に何でも屋さんで、経営者さんが困っていること何でも相談を受けると言う形です。基本的には経理代行、給料、労務、人事、記帳代行業を全部。行政関係の申請をやっています。

例えば、錦のお店でお客さんの名刺管理をやってほしいというような例もありました。お願いされれば掃除でも何でも。お客様が困っていることに対しては全て受ける会社です。

今ここにいらっしゃる皆さんの会社では、思いもかけないと思いますが、小さな会社ですと、経理を1人雇うのがもったいないとか、横領にあつて人を信じられない。従業員に使い込みをされて経理の人が信じられない、と言うような会社の経理を担当しています。ネットバンキングがありますので、請求書とか一切切ごさつと持ってきてもらって、振り込み作業とか全部やる場合もあります。

当社を信用していただいて、振り込みだとか給料の支払いだとかの業務代行をメインでやっています。社長が実際に現場に出るような小さな会社さんですと、経理等をやっているとな本業がおろそかになって、売り上げが上がらない言うことがあります。資料の封筒を開けずに持ってくる社長さんも結構いらっしゃいます。派遣に行つて経理をすると言うような仕事をしています。

もう1社が合同会社アクシスクラブ26と言う会社がありまして、廣嶋が昭和26年生まれと言うこともあつて、税務署長を歴任し、調査などの時にご縁のあつた先生方と交流することがあつて、その時に発足しました。歴代税務署長を代々やられた先生だけを集めて、先生方の勉強会だとか企業さんに対しての勉強会をする会社を発足しました。

こちらのお客様に関しては調査が怖い。いろいろ思うところがある会社さんもありますので、そういった企業の方に入つていただいたり、同業者税理士の方にも会員になっていただいて、毎月1回定期的に勉強会を行つたり、企業の皆様は年1回懇親会を開いて先生方との懇親を深めていただくと言うことをやっています。

今後の例会予定

7月28日(木) 会員卓話 田島陽介さん、岩田 宏さん

8月4日(木) 「名古屋中央 RAC 支援金贈呈」

8月11日(木) 休会 (定款定款第7条第1節—(d)により)

**ウクライナに
医療物資を届けるために
大陸を超えて
ロータリークラブが結束**
MyRotary より記事転載

医療物資をいっぱい積んだ2機の貨物輸送機がシカゴを出発。これらの物資は、現地の会員の協力を通じてウクライナ各地へと届けられます。

記事 Arnold R. Grahl

ロシアの軍事行為によるウクライナでの人道的危機が続く中、北米、アルゼンチン、ヨーロッパのロータリー会員が、米国のウクライナ人医師会との協力や自らのネットワークを駆使し、医療物資100トン超を収集しました。

止血帯、止血ガーゼ、血圧計など、集まった大量の医療物資は、2機の貨物輸送機でシカゴからヨーロッパに運ばれました。現地で最も必要とされる物資を特定するために、ロータリー会員が病院と毎日連絡を取り合っています。

国際ロータリー理事エレクトであるパット・メリーウェザー-アンジェスさん（ネーパービル・ロータリークラブ [米国] 会員）は、「ロータリーは、ネットワークを築き、人びとを結束させ、物事を成し遂げることに長けている」と話します。

必需品リストにある物資や機器を購入するため、北米とアルゼンチンのロータリークラブがリソースを寄せ集め、製薬会社や医療機器製造業者の知り合いを通じて物資を集めています。シカゴ近郊の病院が救急車1台を寄贈したほか、米国メイン州の会員は「Cアーム」と呼ばれる、爆弾金属片による負傷者のための可動式X線装置1台を確保しました。

こうした物資は、北米ウクライナ医師会（UMANA）が運営する倉庫に次々と集まっています。数百マイル離れた他州のロータリークラブからも、大型トラック数台分の物資が、シカゴのオヘア国際空港近くにあるこの倉庫に運ばれています。倉庫内では、UMANAとロータリーのボランティアが、発送前の物資の整理と仕分け、梱包を行っています。発送費は数名から寄せられた寄付で賄われます。

「ロータリアンがほかのロータリアンに声をかければ、素晴らしいことが成し遂げられる」と話すのは、マーガ・ヒューコさん（シカゴ・ロータリークラブ会長）です。

マーガさんの夫である国際ロータリーのジョン・ヒューコ事務総長兼CEOは、ウクライナ系米国人で、キーウ・ロータリークラブの創立会員です。ヒューコ夫妻は、1990年代に5年間、ウクライナに住んでいました。

今年はじめ、マーガさんとシカゴ・ロータリークラブは、ウクライナの都市リヴィウのがん患者のための幹細胞保存施設の設定に向けて、シカゴとウクライナの医師たちと協力していました。この保存施設は、細胞を長期間保存し、より複雑な研究を支援することが目的でした。

戦争の勃発により、この活動の焦点は人道的支援へと切り替わりました。

「シカゴのウクライナ人コミュニティに連絡を取り、どう支援できるかを尋ねました。また、ウクライナ人医師たちとのつながりを通じてUMANAについて知りました」とマーガさん。

1950年に創設されたUMANAは、会議や北米・ウクライナ間の医師の交流を通じて教育を促進しています。戦争勃発後、UMANAのボランティアがウクライナへの医療物資の発送や、医師と製薬会社とのネットワークを通じた医療物資・機器の収集を開始。ほどなくして、このプロジェクトにロータリークラブも加わりました。

アルゼンチン出身のマーガさんは、母国の知り合いを通じてアルゼンチンのクラブからの協力を募りました。これらのクラブの会員も、それぞれの人脈を通じて資金や医療機器を集めています。

UMANAの倉庫を見学したマーガさんとメリーウェザー-アンジェスさんは、このプロジェクトの効率の高さと規模の大きさに感心しています。

「ただ素晴らしいとしか言いようがありません」とメリーウェザー-アンジェスさん。「UMANAとの協力を選んだのは、シカゴのウクライナ人コミュニティとの強いつながりがあるからです。これまでにパレット約400個分の物資の仕分けと梱包を行いました」

引き続き、ウクライナ国内の会員が医療必需品リストを作成しています。外科医であるオルハ・パリイチェクさん（チェルカースイ・ロータリークラブ会員、トルコ・ウクライナ国際共同委員会のメンバー）は、毎晩病院に電話をかけて必要物資を確認しています。

病院への配達の手配は、チェルカースイに住むパリイチェクさんのほか、リヴィウやオデーサに住む会員が行っています。

ウクライナ国内外の会員によるこうした行動は、ロータリーのネットワークがもつ力を物語るものだ、とマーガさんは言います。「戦争のただ中で、しかもロシア軍が病院を標的とすることもある中で、ウクライナ国内のロータリーボランティアたちが国中に物資を届けているという事実は、“超我の奉仕”以外の何ものでもありません」